

開会にあたって

グローバル連帯税フォーラム代表理事

金子 文夫

本日のシンポジウムの開会にあたり、簡単に趣旨説明を行いたいと思います。

昨年から今年にかけて、フランスの経済学者、トマ・ピケティ氏の著書『21世紀の資本』が世界的なベストセラーとなりました。そこでは、資本主義は富の偏在、格差の拡大をもたらすことが実証的に明らかにされています。この本がベストセラーになったのは、こうした格差の拡大を多くの人々が実感し、関心をもっているからでしょう。本日のシンポジウムでは、格差是正への処方箋としてピケティ氏が提案する「グローバルな累進的資産課税」問題を軸にして、関連する分野の専門家による講演とパネルディスカッションを行います。

このシンポジウムは、グローバル連帯税フォーラムと民間税制調査会の2団体の共催として開かれます。グローバル連帯税フォーラムは、国境を越えるグローバルな経済活動に課税し、貧困問題、環境問題等、グローバルな課題解決の財源を生み出そうという国際的なNGO運動を日本で担っている市民団体です。また民間税制調査会は、納税者の視点から日本のあるべき税制を考え、政府・与党の税制改正案に対案を示していこうという専門家を集めた政策集団です。この二つの団体が、グローバル・タックス、つまり国際課税の問題を接点にして問題意識を共有し、本日のシンポジウムを準備した次第です。さらに、この企画には、世界の貧困問題に取り組むNGO、日本リザルツの協賛をいただいていることを申し添えます。

さて、本日のシンポジウムでは、まず日本の格差・貧困問題の第一人者である京都大学名誉教授の橘木俊詔先生に基調講演を行っていただきます。続いて民間税制調査会代表である青山学院大学の三木義一先生から「民間税調版税制大綱」の骨子を紹介していただきます。その後、パネル討論に移り、三木先生の司会のもと、グローバル資本主義終焉論の水野和夫・日大教授、タックスヘイブン問題の専門家、志賀櫻弁護士、グローバル・タックスの研究者、上村雄彦・横浜市大教授、気候変動問題に取り組むNGO、WWF（世界自然保護基金）のプロジェクトリーダーの小西雅子さん、それに橘木先生を加えて、グローバルな累進的資産税の可能性などをめぐってプレゼンテーションと議論をしていただきます。

それぞれの分野の第一人者が集まった本日のシンポジウムは、税の問題を切り口にして、21世紀の日本社会と世界に向けて、革新的なメッセージを発する場になるものと思います。これまで国際課税、グローバル・タックス問題になじみのなかった日本社会のなかに、新たな関心が生み出されていくきっかけになることを、主催者として期待しています。後半では会場からの質疑応答も予定しています。皆さんの積極的なご参加、ご協力をお願いして、開会にあたってのご挨拶とします。